

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(中学校)

敦賀市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	気比	中学校	体力テストの結果を見ると、男女とも全国平均を上回る種目が多くあった(男子1年4種目、2年3種目、3年6種目/女子1年7種目、2年2種目、3年3種目)。また、主体的に運動に取り組もうとする生徒も見られた。長距離走では昨年から引き続き、学習カードを使い自分の走るペースを分析することや、運動前後の心拍数を計測し、自己の頑張りを数値化することで、運動に対して思考する習慣が身についてきた。
2	角鹿	中学校	3分間走・3分間跳びや補強運動(ダッシュ)を交互に授業のアップとして取り入れ、体力の向上に向けての取組ができた。 体育の授業を楽しめたと感じる事ができた生徒が80%を超えた。 体育委員会企画で初めて「身体能力王決定戦」を行い、体力の向上の意識を高める事ができた。
3	松陵	中学校	体力テストの結果では、どの学年も女子は半数以上の種目で県平均を上回ったが、2. 3年男子は1種目以外は県平均を下回った。 年間指導計画を着実に実施していく中で、授業の中で意欲的に活動する姿が多く見られ、見学者は1講座1人程度となった。
4	東浦	中学校	ワークシートやタブレットを活用することで、課題解決に向けて主体的に活動しようとする生徒が増えた。また、動画を撮影することで、良い点や課題を見つけることができ、学習意欲の向上にもつながった。体力測定では、男子は反復横跳びで5回程度、女子はハンドボール投げで2m程度、全国平均を上回ることができた。
5	粟野	中学校	本年度は、「タブレットの活用」をテーマに剣道の単元を展開した。画像を確認し、課題があるとそれを改善しようとアドバイスし合あう場面が増えた。動画撮影、画像確認を取り入れるだけでも生徒の活動への意欲は高まり、うまくなりたいという気持ちから技能の習得をねらった活動にも意欲的に取り組むようになった。タブレットの使用は運動量の確保が難しいことも懸念されるが、使い方によっては運動量の向上も見込めると感じた。持久走の単元において駅伝形式の授業を行った。その結果、持久走が得意な生徒はもちろん、苦手意識のある生徒も一生懸命走り抜く場面が多く見られた。また、仲間とともに達成感を味わうなど、個々のたくましさや仲間づくりができた。タブレットで自分たちの活動を見ることで、活動のイメージをもって技能向上に努めることができ、課題を補うことができた。また、お互いにアドバイスをし合う環境が作れた。